

令和7年度 職能局研修会 活動報告

日時：令和7年10月25日（土）13:00～16:30（受付12時45分～）

会場：山形県立保健医療大学

参加者：13名

内容：「物理療法の再考」

前半 最新トピックや物理療法の収益性や効率性、物理療法の治療効果について

後半 臨床における物理療法の実際 情報交換と座談

講師：前半 伊藤超短波会社 清水紀代志氏

後半 山形市立済生館病院 本間大智氏

13:00 全体オリエンテーション

13:05 講義開始 最新トピックや物理療法の収益性や効率性、物理療法の治療効果について 清水紀代志氏

14:30 休憩

14:35 臨床における物理療法の実際 情報交換と座談 本間大智氏

16:05 機器体験等

16:25 まとめ

16:30 終了

研修会を終えて

参加者は13名でした。イベントの多い時期の土曜日、日中の開催のため少数の参加でしたが、その分機器を体験する事ができました。

実際に機器を使用し、超音波による筋の粘弾性向上やEMSによる可動域の改善を体験しました。短時間で可動域の変化が表れた際には、参加者から「おお！」「あっ！変わった」との声が聞かれました。また情報交換や座談では、機器の体験を通して参加者同士の話しやすい雰囲気も作られたようで、日ごろの物理療法についての疑問や運用方法について活発なやり取りが見られました。

参加者からは「機器が高くて導入が難しい」「使っている人と使っていない人の差がある」「準備までが面倒でハードルが高い」といった声が聞かれました。ネガティブな印象の一方で、「効率的に緊張や硬結を改善する事ができる」「様々な作用が期待でき、評価に基づいて使用すれば、理学療法を効率的にできる」などのポジティブな一面を講師から学び、物理療法を再考するきっかけを得られました。



文責 多田雄一